

06.ロンドン塔



ロンドン塔はロンドンを流れるテムズ川の岸辺、イーストエンドに1078年移りに築かれた中世の城塞である。象徴である4本尖塔の「ホワイトタワー」を中心に、ピーチャムタワー、ブラッディータワー、ベルタワーなど複数の建造物にて構成されている。城塞・宮殿という当初の用途から造幣所・天文台・銀行・動物園など多義に渡り利用され、その姿を現在に伝えている。その中でも監獄として利用されていたことが有名。テムズ川に面した「裏切りの門」からは多数の投獄者が通り、その暗い歴史が垣間見える。



ピーチャムタワーでは投獄された古人の記したメッセージやホワイトタワーでは、当時の軍用備品などが展示され、中にはチャペルが存在しと多様に使われていた歴史を感じられる場所であった。

ロンドン塔の衛兵、通称ビーフィーターも健在あり、また「ロンドン塔からカラスがいなくなると英国が減じる」という伝説から飛べないカラスが飼育されている。



ロンドンの歴史を考える上でも、その時代とともに様々な使われ方をし、当時の古人に想いを馳せ、イメージを膨らませ、夏目漱石に「ロンドン塔を見物すると、多様な回想頭を駆け巡り、現像か現実か分からなくなる」と言わせた歴史抜きで語れない魅力的なものであった。



小柳 実